

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 7 月 4 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (7/4 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*1	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m ³ /h	35.5	106.0 kPa abs	A系:0.03 vol% B系:0.03 vol%
		給水系：約 3.5 m ³ /h			
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 5.2 m ³ /h	48.3	4.99 kPa g	A系:0.10 vol% B系: - vol%*2
		給水系：約 3.1 m ³ /h			
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 4.8 m ³ /h	49.7	0.23 kPa g	A系:0.23 vol% B系: - vol%*2
		給水系：約 3.9 m ³ /h			

*1:絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

*2:電源停止作業に伴いデータ欠測

【1号機】・7/3 原子炉格納容器ガス管理システムの希ガスモニタにて確認したキセノン 135 は、 $1.4 \sim 3.0 \times 10^{-3} \text{Bq/cm}^3$ であり、再臨界判定基準の 1Bq/cm^3 を超えていないことを確認。

【2号機】・7/3 原子炉格納容器ガス管理システムの気体のサンプリングを実施。分析の結果、キセノン 135 は当該システム入口でキセノン 135 が検出限界未満(検出限界値 $1.0 \times 10^{-1} \text{Bq/cm}^3$)であり、再臨界判定基準である 1Bq/cm^3 を超えていないことを確認。また、希ガスモニタにて確認したキセノン 135 は、検出限界未満(検出限界値 $2.3 \sim 2.4 \times 10^{-1} \text{Bq/cm}^3$)であり、再臨界判定基準の 1Bq/cm^3 を超えていないことを確認。

【3号機】・7/3 原子炉格納容器ガス管理システムの希ガスモニタにて確認したキセノン 135 は、検出限界未満(検出限界値 $3.4 \times 10^{-1} \text{Bq/cm}^3$)であり、再臨界判定基準である 1Bq/cm^3 を超えていないことを確認。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (7/4 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	24.0
2号機	循環冷却システム	運転中	26.3
3号機	循環冷却システム	運転中	24.7
4号機	循環冷却システム	運転中	32

*各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドランジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	7/2 10:11 ~ 移送実施中
	タービン建屋		
3号機	3号機	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	6/26 10:14 ~ 7/4 9:50 移送実施
	タービン建屋		

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (7/4 7:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転

*フィルタの洗浄を適宜実施。

- H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- H24/6/21 12:05 H1スキッド内のバルブ交換工事を行うために、セシウム吸着装置を停止。停止期間は約1ヶ月の予定。なお、バルブ交換工事期間中は第二セシウム吸着装置による処理を継続予定であり、滞留水処理、原子炉注水については問題ない。

<5. その他>

- H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/3/6～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/3/14～ 港湾内の海底土拡散防止を目的として、固化土(被覆材)による海底土被覆工事の本格施工に着手。
- H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- H24/7/2 2号機廃棄物地下貯蔵建屋でタンク類の状況確認を目的とした調査を行っていたところ、廃樹脂貯蔵タンク室に水が溜まっていることを確認。同建屋内の雰囲気線量率がタンク上部で約 0.8mSv/h、水面から約 60 cm上の位置で20mSv/h以上であることを確認。その後、廃樹脂貯蔵タンク室内滞留水の核種分析を実施したところ、ガンマ核種の合計で $1.2 \times 10^2 \text{Bq/cm}^3$ であることを確認。当該滞留水は、高濃度汚染水が地下水等の流入水により希釈されたものと考えている。なお、汚染水については、同建屋が2号機の廃棄物処理建屋とつながっていること、滞留水の水位がタービン建屋や廃棄物処理建屋とほぼ同じ水位であることから、高濃度汚染水が廃棄物処理建屋を経由して同建屋の地下へ流れ込んだものと考えられる。また、地下水については、両建屋の僅かな隙間を通じて、配管貫通部の隙間から同建屋に流れ込んだものと考えている。なお、同建屋の水位より地下水位が高いことから外部への流出の可能性はない。

以上